



長谷寺かわら版

# 百日紅

90号

2014 (平成26) 年  
11月1日

## 菩薩の話 (前篇)

前号では、仏たちの誕生 ことやらと理解しにくい向  
の話をしました。

仏といえば、釈迦ひとり 宗派の中には、真言宗のよ  
だけだったはずなのに、仏 うに多くの仏たちを信仰の  
教の思想的展開の中で、阿 対象としている宗派ばかり  
弥陀仏や薬師仏、あるいは ではありませんし、本紙の  
毘盧遮那仏びるしやなぶつなど、さまざま 読者も真言宗どころか、仏  
な新たな仏たちが生み出さ 教徒でさえない方もおられ  
れていきました。 ます。

### ☆十三仏

ところで、釈迦仏以外の 尊として掛けられている13  
仏たちの話をして、何の の「仏」たちの図で、「十三



仏」と呼ばれています。仏 薩。お不動さんはお分かり  
に「」を付けたのは、厳密 ですね。光背の代わりに火  
には仏ばかりではないから 炎を背負っています。  
で、「十三仏」は、5体の 真言宗は、そういう多く  
仏、7体の菩薩、1体の明 の仏・菩薩たちを信仰の対  
王によつて構成されている 象としている宗派とお考え  
チームで、例えば不動明王 下さい。ただ、複数の仏・  
は初七日しよなぬかの、釈迦仏は二七ふたなぬ 菩薩を信仰の対象にしてい  
日の本尊というように、そ るのは決して真言宗に限る  
れぞれ初七日から33回忌ま わけではありません。大乘  
での計13回の法事に対応し 仏教と呼ばれる宗教の属性  
た「仏」たちです。 ともいえます。

そういう意味では、真言 また、長谷寺は観音菩薩  
宗の仏壇ははじめから法 を本尊としているように、  
事、言い換えれば、先祖供 各寺院が十三仏全体を本尊  
養のための設備といえそう としているというわけでも  
です。ただこれは「当地の」 ありません。

### ☆菩薩

という限定を付けるべきか というわけで仏教、とく  
もしれません。真言宗の中 に大乘仏教には、同じく信  
心仏である大日如来のみを 仰の対象として、仏とは性  
仏壇の本尊としている地域 格や姿形の異なる、菩薩と  
も少なくはないはずです。 いう存在があります。われ

ちなみに、図の中で極め らが観音菩薩とか、お馴染  
てシンプルな服装をしてい の地藏菩薩とか。  
るのが仏。冠などの装飾を つけ飾っているのが菩

これら菩薩も、普通に

仏さんと呼ばれるし、その 像も仏像と呼ばれます。仏  
像の話をしたときに、菩薩 も仏の仲間、みたいな書き  
方をしましたが、厳密に言 えば、仏と菩薩は別物(別  
者?)です。

また、如来にょらいという言 葉があります。これは「仏  
(仏陀)」の意味を漢語に翻 訳したものですから、実体  
は同じです。ややこしいの で今回も「仏」を使うこと  
にします。

仏は悟りを得た存在です が、仏になる前の彼(彼女)  
は、釈迦がそうだったよう に、悟りに向かって修行を  
している「人間」であった はずです。仏教では彼らを  
菩薩と呼びました。

前号で紹介した弥勒菩薩 がまさにそうでした。い  
まは兜率天とそつてんで最終段階の修 行をしています。いずれ  
その修行が実り、遠い未来

にこの世界に仏として生まれ、衆生を救います。

弥勒だけでなく、悟りを求めて修行を積んでいる、そういう存在が菩薩です。

しかしこの菩薩という存在は、お釈迦さんの説いた教えの中にあつたわけではありません。

### ☆菩薩誕生の背景

前号で、悟りは容易に獲得できるものではないという認識が、多くの仏たちを生み出したという話をしました。そういう「仏の拡大路線」とともに、仏教者たちは、次のようなことも考えるようになります。

悟りを得ることがそれほど困難なことだとしたら、いくら偉大なお釈迦さまでも、そう容易に悟れたはずがないのではないか。お釈迦さまだって、きつと長い長い修行を積んだ結果として悟りを得たはずだ、と。

釈迦は、29歳で出家して

35歳で悟りを得たというこ

とになっているが、そんな

はずはない。きつと幾度も

生まれ変わり、その幾度も

の前世で厳しい修行を重ね

たからこそ、最後の生でわ

ずか6年の修行で悟りを得

ることができたのだろうか、

と。

人々にとつて、悟りを得

ることは、ことほどさよう

に、容易なことではなかつ

たのでしよう。

こうして、釈迦が修行を

積んだという、前世の物語

が生み出されることになり

ます。

### ☆釈迦の前世の物語

古典文学を代表するご存

知『平家物語』は、「祇園

精舎の鐘の聲 諸行無常の

響きあり 沙羅双樹の花の

色 盛者必衰の理をあらわ

す」という印象的な語りで

始まります。ここに出てく

る「祇園精舎」も「沙羅双

樹」も、釈迦をめぐるエピ

ソードのひとつコマ。平家物

語は、平家一門の栄華と盛

衰の叙事詩を、仏教的な立

場で語つたものです。

とくにここに出てくる

「諸行無常」は、まさに仏

教の根幹の教えで、釈迦の

前世譚のひとつである「雪

山童子の物語」に出てくる

言葉です。

釈迦が前世で雪山童子

だったとき、夜叉が口にし

た「諸行無常 是生滅法」

という言葉を耳にします。

悟りを求めて修行中だった

童子は、これに続く言葉を

聞きたいために、人喰い夜

叉の求めに応じて我が身を

供する決意をします。

童子が、自身の命と引き

換えにしまで求めた残りの



「雪山童子図」曾我蕭白作

法 生滅滅已 寂滅為樂」

のわずか16文字の経は、こ

のエピソードのゆえに、

「夜叉半説偈」とも呼ばれ

ています。ちなみにこの人

喰い夜叉の正体は、修行に

向かう童子の覚悟を試そう

とした、帝釈天だったとき

れています。

ところで、空海の作とき

れているお馴染みの「い

ろは歌」は、短いけれど仏

教の神髄を説いたこのお経

を、分かりやすく翻訳した

ものだとはいわれています。

「いろは歌」は次のよう

な七五調の詩です。

有為の奥山 今日越えて  
浅き夢見じ 酔ひもせず

「花が咲いてもいざ散るように、人もやがては死んでしまう。無常は生ある者の免れない定めだ。しかし生死を超越してしまえば、そこには真の悟りの世界があり、もう浅はかな夢を見ることも迷うこともなくなるだろう。」

ざつと意識すると、以上のような内容です。まさにここには、世の無常と悟りの世界が説かれて

いるわけで、仏の教えを分かりやすく説くだけだけでなく、仮名で書けば同じ文字を重複させずに作られていることから、手習いの手本として使われたことは、ご承知の通りです。実際の作者は不明ですが、これが空海の作とされたのは、きつ

と彼ほどの高僧にしかなしえないような名訳と考えら

我が世誰ぞ 常ならむ



れたためでしょう。

もうひとつ。右の写真に示した、法隆寺の国宝「玉虫厨子」の側面に描かれた「捨身飼虎図」も、やはりこの前生譚のひとつを描いたものです。これは、釈迦が薩埵王子だったとき、飢えた母虎が、自分が生んだばかりの子を食べようとしたため、身を投げて自らの肉を母虎の食物に供し、虎たちの命を救ったという物語です。

この他に、ウサギだった釈迦が、やはり自身の身を焼いて、肉を帝釈天に捧げるといふ話もあり、どれも釈迦の前世の修行の過酷さを説いています。どうやら、命がけの修行を幾度も積まない限り、悟りは得られそ

### ★救うという修行

この、悟りをひらく前の釈迦の存在が、菩薩という仏教の新兵器を生むことになりません。悟りを得る前の修行中の釈迦も、前世で修行を重ねる釈迦たちも、悟りを求めている存在として「菩薩」と呼びました。仏像の話で書いたように、菩薩と名のつく仏像のモデルは、悟りをひらく前の釈迦の姿。お釈迦さんは釈迦族のプリンス、王子さまですから、きらびやかな衣装や飾りを身に付けています。ところでこの、自らの身を捨てて、飢えた夜叉や虎を救う修行は、他者を救済するといふ行為です。

修行というより、善行といったほうが分かりやすいでしょうか。善を行なうことは功德であり、功德を積むことも仏教の大切な修行

のひとつと考えられるようになりました。

自らの悟りを求める修行に、他者の救済という考え方が加わること。そして他者の救済も修行に他ならないと考えること。これが菩薩の誕生の背景にあります。この、他者の救済という仏教の新しい姿勢は、のちに「慈悲」という言葉で言い表されることになりました。

### ★悟りを求める人々

もともと仏教は、釈迦の教えに従って修行を積み、自らの力で悟りを得ようという教えでした。

しかしそれは容易なことではありません。釈迦でさえ、修行生活に入るために家族を捨てました。修行は、ひたすら自己を見つめ、精神的な高みを目指す行為ですから、家族に気をとられていては修行などできません

ん。逆に修行の妨げになるだけです。

それにしても、自分の悩みを解決するために家族を捨てるなんて、考えてみればずいぶん自分勝手な話です。

しかも、家族を捨てて出家しても、他人の力に頼らないと、修行など続けられないものではありません。なにしるお坊さんは、修行に専念するため、生産活動はしてはいけないことになっています。というより、そんなことをしている暇などないわけです。だから、信者たちからいただいた食べ物だけで暮らすのが決まりです。

信者Ⅱ 在家の人たちは、そういうお坊さんに食べ物

を布施します。お坊さんたちには布施をすることで功德を積み、現世で幸福を得、来世で天界に生まれて安楽

を得ると信じられました。しかし、それでは悟りを

得るのはお坊さんたちだけで、それ以外の人たちは悟りとは無縁ということになります。これでは人々の心は繋ぎ止められないでしょう。こうして仏教は、他者の救済だけでなく、他者の悟りさえも視野に入れるようになります。

一切衆生の救いと悟り。菩薩という存在は、この両者に対する人々の願いから生まれたものでしょう。

### ★菩薩の拡大

というわけで、まずもって菩薩は、「悟りを求める存在」の謂です。

そもそも菩薩という言葉は「菩提薩埵」の略で、「菩提」は悟りⅡ成仏。「菩提を祈る」とは「成仏を祈る」ことと同義です。「薩埵」は「衆生」と訳されませんが、人間のことで。生

き物すべてということでも  
いいです。釈迦の前世のウ  
サギだって、菩薩でした。

とすれば、悟りを得たい  
と願う人なら、誰もが菩薩  
ということになります。私  
は菩薩としてはまだ新人で  
すが、あなたも悟りを求め  
ようと、あなたも悟りを求め  
ようと、いまこの瞬間から菩薩  
ということになります。

### ☆遙かなる悟り

ただ、偉大な釈迦でさえ、  
幾度も生まれ変わった末  
に、ようやく最後の生で悟  
りに達したわけですから、  
凡人なら気の遠くなるよう  
な長い修行が必要です。

ちなみに、悟りを得るま  
での修行の長さは、「三劫  
成仏」という言葉で表わさ  
れます。「劫」というのは、  
想像を絶するほどの長い時  
間の単位です。

「寿限無」という落語が  
ありますね。生まれた子ども  
もの長寿を願って、やたら  
に「長いもの」を連ねた名  
前を付けるという話。この  
長い名前の冒頭に、「五劫」

という言葉がでてきます。  
「寿限無、寿限無、五劫の  
擦り切れ・」。

十里四方もある巨大な岩  
に、三千年に一度、天女が  
舞い降りて、着ている羽衣  
でその大岩をそつと撫でま  
す。こうして三千年に一度  
サラリと撫でられた岩が、  
擦り切れて無くなってしま  
うまでの時間が「一劫」。

それが五度巡って「五劫」。  
成仏し悟りを得るまでは  
「三劫」ですから、そこま  
で長くはないにしろ、想像  
を絶するほど長い時間とい  
うことには変わりありません。  
それだけの大変な修行  
が必要というわけです。

前号で弥勒仏の出現まで  
の長い時間の話をしました  
が、これはもうその比では  
ありません。仏教の考え  
る時間の長さは、人知のス  
ケールをはるかに超えてい  
ます。

（つづく）



### ◆台風11号

今年、夏と呼べるものが、は  
たしてあったのかと言いたくなる  
くらい、気温の低い、雨の多い夏  
でした。各地の被害に心を痛めた  
ものです。

台風11号が猛威を振るった8月  
10日は、撫養街道沿いの檀家さん  
たちを盆経で訪ねる日でした。幸  
い意外に早く通り過ぎてくれたの  
で、予定より3時間ほどの遅れで  
拜みに行くことができました。

なにしろ風が強烈だったので、  
境内のイチヨウが大量の枝葉を落  
とし、裏山のミニ霊場も倒木など  
でずいぶん荒らされました。

台風の去ったあとは、ミニ霊場  
をパトロールして、参道を整備  
することにしています。普段なら



「見事に倒壊した不動堂手洗い場の屋根

ぼく1人で  
十分な作業  
も、今回は  
盆経の手伝  
いに来てく  
れていた仲  
間の協力を  
得て、3人  
がかりで片

付けました。目立った被害といえ  
ば、不動堂の手洗い場の屋根の倒  
壊。いまは取り払われています。

ミニ霊場を復興したのは18年前  
のことですが、伸びた草木に隠れ  
て参道やお堂の分からなくなった  
場所や、大量の倒木で通れなく  
なっていた場所が少なからずあり  
ました。細かいメンテナンスが出  
来ている間はいいいですが、これか  
でなくなるといわずに、かっ  
てのように荒れ果てた霊場になっ  
てしまうのだからと感じたことで  
した。これも諸行無常です。

寺では、毘沙門堂が少し壊され、  
屋根瓦も幾枚が落ちました。これ  
については次号で報告致します。

〒772-0004  
鳴門市撫養町木津 1037-1  
電話 088-686-2450  
ファクス 088-686-2130  
E-Mail  
cho\_kuma@mwb.biglobe.ne.jp  
URL  
http://www.chokokuji.jp/

新行 長時 編集 裕信